

わがくがき

広報

Public Relations

守り続けた心の故郷

昭和40年ごろの上倉沢棚田（写真左は堀一^{かすえ}枝さん7ページに登場）

Proud!
愛国愛郷の心を
Japan



特集

守り続ける地域の価値

【写真】島田市金谷 森沢宗彦さん撮影

December
2011
Vol. 151

12



さあ、おどらざあ！ 盛

第5回ODORA THE 菊川フォトレポート

みんな踊って
みんな笑って

菊川市の観光イベント「ODORA THE (おどらざあ) 菊川」が10月30日、菊川運動公園で開催されました。菊川市の魅力を市内外に発信し、観光・産業の振興を図ることが目的。会場には、およそ1万6000人の来場者が詰め掛けました。

メインイベントのダンス大会には28チーム、およそ470人が出場しました。市内のみならず、県外からも多数のチームが参加。よさこいやHIPHOP、フラダンスなどさまざまなジャンルのダンスが繰り広げられました。

ステージではダンス大会以外にも、市内の小学2年生50人のミニ茶娘が「ちゃこちゃん音頭」を披露。かわいらしい茶娘姿に、来場者から大きな拍手が送られました。3代目茶娘の卒業セレモニーも開かれ、2年間菊川茶のPRに努めた10人の茶娘に、新たに選ばれた4代目茶娘から花束が贈られました。

菊川市出身のアーティスト「未来(L8, bee) スペシャ



10



11

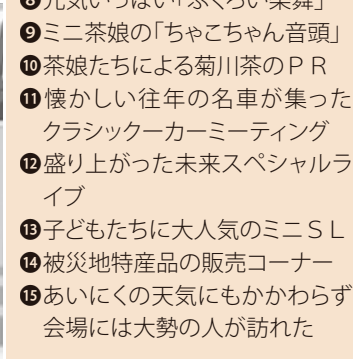
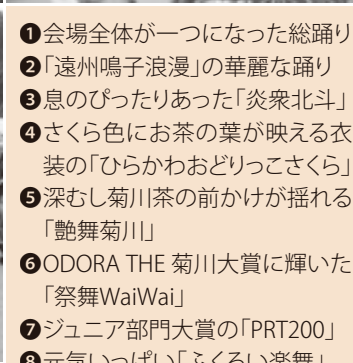


9

笑



8



- ①会場全体が一つになった総踊り
- ②「遠州鳴子浪漫」の華麗な踊り
- ③息のぴったりあった「炎衆北斗」
- ④さくら色にお茶の葉が映える衣装の「ひらかわおどりこさくら」
- ⑤深むし菊川茶の前かけが揺れる「艶舞菊川」
- ⑥ODORA THE 菊川大賞に輝いた「祭舞WaiWai」
- ⑦ジュニア部門大賞の「PRT200」
- ⑧元気いっぱい「ふくろい楽舞」
- ⑨ミニ茶娘の「ちゃこちゃん音頭」
- ⑩茶娘たちによる菊川茶のPR
- ⑪懐かしい往年の名車が集ったクラシックカーミーティング
- ⑫盛り上がった未来スペシャルライブ
- ⑬子どもたちに大人気のミニSL
- ⑭被災地特産品の販売コーナー
- ⑮あいにくの天気にもかかわらず会場には大勢の人が訪れた

大満足の日

ルライブ」では、力強い歌声が響き渡りました。

ステージ以外にも国産のクラシックカー69台の展示や菊川茶のPRコーナーなども人気を集めました。また、今年は「被災地へ届けよう！元氣と活気を、菊川から！」と題し、宮城・岩手・福島の特産物を販売。その売上金を復興支援義援金として寄付しました。

午後から降り出した雨の中、最後はステージ前での総踊り。大会参加者や来場者などが参加し、威勢の良い踊りで締めくくりました。

ダンスコンテスト結果

ODORA THE 菊川大賞

祭舞WaiWai(愛知県東郷町)

ジュニア部門

ODORA THE 菊川大賞

PRT200(掛川市)

ジュニア部門

準ODORA THE 菊川大賞

3FLAG(掛川市)

よさこいソーラン部門優秀賞

幻(藤枝市)

ストリートダンス部門優秀賞

REDPARTS&WHITE

(掛川市)

ワールド&トラディション部門優秀賞

フラリナ(掛川市)

審査員特別賞

華連榛原・かれん・(牧之原市)





上倉沢棚田「千框」
せんかまろ

守り続ける 地域の価値

たわわに実った稲穂が黄金色に輝く季節。収穫期を迎えた上倉沢棚田「千框」は、慣れない手つきで稲を刈り取る子どもたち、束ねた稲をはぎ掛けするボランティアの大学生など、400人を超える人たちがにぎわいました。

近年、テレビや新聞にたびたび取り上げられるようになった千框。美しい風景を求めるアマチュア写真家、俳句の会、写生の会の人たち。棚田オーナーに登録した田植えや稲刈りを体験する人など、四季を通じ多くの人が集う場所となりました。中には、東京都や愛知県など県外から訪れる人も少なくありません。

10月9日に開かれた、棚田オーナーによる稲刈り。晴天に恵まれたこの日は、家族連れや地元の園児などおよそ400人が作業に汗を流しました。参加者は、地元農家の指導を受け、鎌で根元から丁寧に稲を刈り取りました。子どもたちは、稲の陰から顔を出すカエルやバッタなどに大はしゃぎしながら、稲刈りを楽しみました。

しかし、今から20年ほど前の千框は、草木が生い茂り、荒れ地になり果てた田んぼが大半を占め、県外はおろか農家以外の地元の人でさえも寄り付く場所ではありませんでした。

荒廃の危機を迎えていた棚田を守り、美しい風景を取り戻させたもの。それは、住民の地域への愛情。そして、踏み出した小さな一歩からでした。

この特集では、千框を守り続ける地域住民の物語を紹介します。





歴史

History

「メロンの皮のよう」。昭和44年の新聞では、千框の航空写真をこう表現していました。当時は、大小3000枚以上の田んぼが見事に広がっていました。しかし、それから20年後、棚田の9割近くは耕作放棄され荒れ果ててしまっています。

長い年月をかけ拓かれた千框

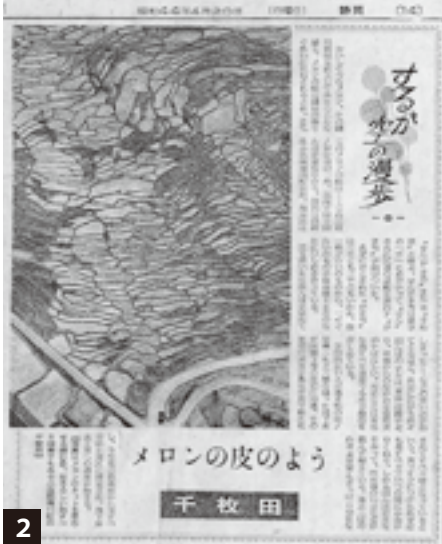
小さな段々畑が、山の斜面や谷間の傾斜地に広がり、美しい景観を形成する棚田。その歴史は古く、6世紀中期から7世紀前半とされる古墳時代後期には、出現していたと考えられています。日本全国の山間地域どこにも見られる水田形態で、先人たちが山から水を引き、少しでも多くの米を得るため、長い年月をかけて造り上げたものです。

上倉沢棚田は、菊川市の北東、牧之原台地の西斜面に広がっています。地元では、千枚の田んぼという意味から「千框」と呼ばれます。およそ10畝の面積には、大小3000枚以上の田んぼが広がり、美しいモザイク模様を形成。最盛期には毎年500俵以上を生産していました。田んぼ1枚1枚の面積が小さく、1枚足らないと探したところ、笠の下に隠れていたという笑話も伝わっています。

千框がいつ造られたという明確な記録は残っていません。19世紀前半（江戸時代後期）の掛川藩領の地誌として作成された『掛川誌稿』に、「棚田は諸方で見られるが、この上倉沢ほどの素晴らしい景観をもったものは他にない」という旨の記述が見られ、1800年ごろにはすでに、見事な景観で知られるようになっていると推測されました。戦国時代から江戸時代初期にかけ少しずつ開発されていったと考えられています。

過酷な千框での農作業

生まれも育ちも嫁ぎ先も上倉沢という堀一枝さんは、千框の移り変わりを見続けてきた一人です。「小さい頃から、何をする訳でもなく親に連れられて来ていた千框。若い頃には、田傘をかぶり、背負子を背負って、あぜ道を歩いて通ったのを覚えています」と当時を振り返ります。



- 1_昭和40年ころの千枚田。大小3,000枚以上の田んぼが広がっていた。
- 2_千枚田の航空写真が掲載された、昭和44年の新聞記事。メロンの皮のようと表現されている。
- 3_あぜ作りや田起こし、田ならしなどすべて手作業。大変な重労働だった。
- 4_棚田の美しいモザイク模様を作り出すあぜ道。毎年泥を塗り崩れるのを防いだ。
- 5_車の通れる道がない時代。家から運ぶものも、収穫したものも皆負子や天秤棒で担ぐ以外方法はなかった。



かず え
堀 一枝さん(85歳)

棚田は自然の中に存在したわけではなく、多くの先人が生活の糧として造り上げたもの。人の手が入らなければたちまち荒れてしまいます。

上倉沢地域の米作りを支えてきた千枚田も、昭和50年代になるとその数は激減します。その原因は、1枚当たりの面積が小さく、傾斜地で労力がかかるため生産効率が悪い。加えて減反政策

衰退していった千枚田での米作り

一枝さんの家では最盛期、棚田だけで年間20俵ほどを収穫していたそうです。機械などない時代、米作りは全て手作業。加えて少人数で作業しているため、1つの作業が長期間にわたることもあったそうです。「田を起こすのも、一くわずつの大変な作業。田植えが終わる頃にお茶刈りが始まり、本当に休む暇もありませんでした」。また、「収穫が遅れて12月に稲刈りをしたこともありました。氷が張った田んぼに裸足で入って、もう冷たいのか痛いのか分かりませんでした」と、過酷だった当時の作業を話してくれました。

最盛期の面影を失った千枚田

や米価の下落、生産者の高齢化などが重なり急速に荒廃が進んでいきました。

「棚田での作業は、あぜ作りや田起こし、田植え、除草、稲刈りなど全て人の力が頼り。手作業が当たり前だと思っていた頃は良かったですが、機械を使用するようになると、小さく効率の悪い棚田ではやる気が出ない。だんだん千枚田で米を作る人が減っていききました」と振り返る一枝さんの家でも、次第に耕作する枚数が減り、60年ころには完全に、千枚田での米作りを止めたそうです。

耕作を放棄された棚田は、アシやスキの生い茂る草原と化し、やがて樹木が生長していきました。平成元年ころには、およそ9割近くの田んぼが耕作放棄され、昔の面影はほとんど残っていないかったそうです。

一枝さんは、「棚田が荒れてしまったのは自然の流れ。大変な作業を考えれば当然のことかもしれませんね」と、当時の写真を見ながら振り返ります。しかし、「家族と一緒に作業した千枚田。大変だったことはもちろんたくさんあります。でも、無事に田植えが終わわり、みんなでサナブリを迎えたこと、豊作を喜んだことなど、今でも忘れられない思い出です」と話す一枝さんは、当時の田舎を今も大切に保管しているそうです。

※サナブリ…田植えを無事に終えたことを祝うとともに、秋の豊年満作を祈願する行事。

再生

Regenerate

「何百年という長い年月をかけ、先人たちの血と汗と涙によって拓かれ、代々引き継がれてきた棚田。このまま失くしてしまってもいいのか」
荒廃が進む千枚に転機が訪れたのは平成6年、現在NPO法人「せんがまち棚田倶楽部」の理事長を務める山本哲^{さとし}さんの一言からでした。



動き始めた地域住民

「私たちの世代は、子どもの頃から棚田を走り回り、棚田のお米を食べて成長しました。この貴重な財産を残したい。そして、子どもたちに伝えていきたい」という思いで活動を始めました」と話すのは堀延弘^{のぶひろ}さん。現在、棚田倶楽部で事務局を担当しています。

平成6年に上倉沢地区の有志10数人が集まり、「千枚田を考える会」が設立されました。設立当初は、「子どもたちが棚田に足を運ぶ機会を作りたい」と考え、地元の子どもを集め風揚げ大会やウオークラリーなどを開催しました。また、「昔の棚田の姿を知ってもらおう」と子どもたちと一緒に田んぼの枚数調査を実施。棚田を覆いつくす雑草を刈り、隠れていた昔の棚田も確認。田んぼに割り箸を一本ずつ立てて数えたところ、2746枚の田んぼが確認できたそうです。

よみがえった棚田の風景

平成11年、県の「棚田等十選」に認定されたことを契機に「上倉沢棚田保全推進委員会」に改称。棚田の復田作業を開始します。地形的に機械が入らないため、作業は全て人の手で行われました。「手作業で原野を切り開いた、先人の苦勞を肌で感じた」と当時を振り返ります。その後、毎年10枚程度の



NPO法人せんがまち棚田倶楽部
のぶひろ
堀 延弘 事務局長

復田を続け、少しずつ懐かしい棚田の風景がよみがえっていきました。

また、この頃から田植えや稲刈りには、県外も含めて幼稚園児や小中学生、大学生から社会人まで300人以上が参加するようになりました。「参加者が初めて100人を超えた時はとても驚きましたが、あつという間に200人、300人と増えていきました」と言うように、地域の風物詩へと成長していきました。

活動を継続していくための選択

「将来的に地元のメンバーだけで活動が続いていくのは難しい。外からの人材を求めるため法人化することが必要」と考えた会員たちは、平成22年2月NPO法人「せんがまち棚田倶楽部」を設立。オーナー制を導入するなど活動をさらに前進させました。

「任意団体で活動しているより、法人化することで社会的信用を得ることが出来る。支援してくれる人も増え、活動しやすくなった」と話すように、

みんなの力で棚田を守ろう



静岡県中遠農林事務所
農村整備課

かつひさ
和田勝久 課長

美しい景観や生態系の保全など多面的機能を持つ棚田は、農村の過疎化や高齢化などにより耕作放棄が進んでいます。

県では、「美しく品格のある農山村の創造」という農山村整備の理念のもと、「“ふじのくに”の農山村づくり(静岡県農山村整備みらいプラン2010-2013)」を策定。

「農村資源の保全活用を担うコミュニティの再生と活性化」という重点戦略のもと、棚田の保全活動を支援しています。

具体的には、棚田の保全活動を行うボランティア組織「しずおか棚田・里地くらぶ」の支援や、農山村と企業が協同で保全活動に取り組む「一社一村しずおか運動」を推進しています。

千框では昨年、耕作放棄地解消を目的とした国や県の助成事業を活用し、復田事業を実施。30年以上耕作されていなかった荒地に重機が入り、およそ45アールを復元しました。また、最上部には千框全体を見渡せる公園が作られ、藤棚や水車などを設置。今まで以上に美しい景観を形成しています。

この千框での保全活動は、最初から県や市の補助を受けて始まったものではありません。地域の皆さんが自主的に始めた活動に、県が支援したもので、活動を継続している地域の皆さんは本当に素晴らしいと思います。

中遠農林事務所では、「地域のひとと話そうよプロジェクト」と題し、管内の58団体が実施する草刈りや用水路補修などの保全活動や農業体験などに、農地担当の全職員が参加。地域の目線に立った業務を行うよう意識改革を図っています。私も、県の職員という立場ではなく、1人の棚田オーナーとして、千框の田植えや稲刈りなどに参加させていただいています。この素晴らしい景観と地域の活動が将来にわたり継続されるよう、支援していければと思っています。



6月4日、千框の視察に訪れた川勝平太静岡県知事



千框を守り、後世に残すため立ち上がった地元の皆さん

国や県の関連事業はもちろん、民間企業の協力も得られるようになりました。「一番大きかったのは、ホームページの開設だった」と話す延弘さん。県が進める一社一村運動で出会った、静岡市のホームページ製作会社(株)ウエブサクセスが、ホームページの製作や管理を支援してくれました。

「ホームページができたことで、広範囲の人たちに千框を知ってもらえるようになった。ホームページを見て首都圏から絵を描きに来たり、写真を撮りに来たりする人も増えた」と話すように、1日平均2000から3000程度のアクセスがあるそうです。

一方「活動内容や会計管理は今まで以上にしっかりとなくてはならない。簡単に止めたりできないと責任感を持

っています」と話すように、地元メンバーの皆さんは、さらに気を引き締めて活動しています。

人と人をつなぐ棚田の魅力

昨年、稲刈りに参加した人は2日間600人。また、視察や学校の授業などを含め、年間およそ2500人が訪れるなど、千框は今、ますます多くの人が集う場所となりました。「棚田には人を引き付ける魅力があります。私もこの活動を通じ、多くの人と知り合うことができました。千框に集まる人たちは、みんな棚田の応援団。これからも、多くの人が集う場所になればと思います」と、延弘さんは今日も日課の^{*}棚田ブログを更新しています。

小沼 みのりさん

テレビやラジオで活躍しているSBSアナウンサーの小沼さん。今年1年を通じ、棚田で農作業を体験しました。

毎回、作業に励む格好は自前のもんぺに長靴、帽子という「農業スタイル」。

稲刈り当日も、元気な笑顔と明るい声で千框の魅力をたっぷりと視聴者の皆さんに伝えていました。

**初めて千框に来たときの感動は忘れられません
この風景をよみがえらせた皆さんは本当にすごいです**

初めての稲作体験

今こうして千框に来ることができたのは、菊川市出身のSBSの記者が私の番組の中で棚田を一年間追いかけていたのがきっかけです。どんどん棚田に興味がわいて、一度棚田の風景を自分の目で見てみたかった、そしてできることなら一年間稲作を体験してみたかったんです。

始まったら本当に楽しくて、新鮮なことばかりでした。どろどろぐちやぐちの田んぼの中に脚絆足袋をはいて足を踏み入れるという未知の感触。それから、普段当たり前のように食べている白いご飯も農家の皆さんがこうして作ってくださっているんだという実感がわきました。自分が植え、育てた稲を収穫して、今まで以上に毎日のご飯をありがたく、おいしくいただくと思いました。

改めて知った棚田の存在価値

地元の皆さんからは「菊川が好き」「棚田を守りたい」という気持ちがよく伝わってきます。私は棚田の歴史



Profile

こぬま みのり
SBSアナウンサー。
静岡市清水区出身。
早稲田大学教育学部卒業。
2005年に静岡放送に入社し現在に至る。
「イブニングeye」「静岡発そこしり」「らぶらじ」など多数の番組で活躍中。

もあまり知らなかったのですが、事務局の堀さんから「棚田はちょんまげを結ったお侍さんがいた頃からあった」などいろんなお話を聞いて、改めて棚田の存在価値を感じました。棚田について話を聞けただけでもオーナーになった価値があったと思います。

「絶滅危惧種」の生き物もたくさんいることを知りました。棚田で出会った大学の生態学の教授が「日本中どこを探してもいないような生き物がここには当たり前のようにいる」と、一枚の田んぼがつくる生態系のすごさを教えてくれました。

私が思う千框の魅力

私にとって千框の一番の魅力はこの美しい風景。全国に棚田はいろいろありますが、やはり茶畑があつて、電車が通っているこの風景には来るたびに感動します。棚田に来たことがない人は一目見に来るだけでも価値があります。棚田のオーナーになってたくさんの人と出会い、たくさんの方のことを学びました。できることなら、来年以降も続けていきたいです。

丹野 夕輝さん

地元の人からも、彼ほど棚田にいる時間が長い人はいないといわれる丹野さん。

取材当日も、朝早くから日が落ちるまであぜ草の植生を調査していました。

この研究成果は棚田倶楽部にとっても貴重な知識となり、棚田保全の大切さを広める大きな力となっています。

**千框は植物、生き物の宝庫です
貴重な生態系を残す棚田を大切にしたい**

千框が育む豊かな生態系

千框との出会いは3年前。自分が所属する研究室で、共同研究していた人の手伝いで来たのが最初でした。初めて千框を目にしたときはその風景に感動しました。それからずっと棚田の魅力に引かれ、研究を続けています。

私が感じる棚田のすごいところは、やはり昆虫や生き物、植物の種類の多さです。ニホンアカガエルなどとても貴重な種も生息していますし、シヤジクモやイチヨウウキゴケなど田んぼの中の何気ない植物も、実は絶滅危惧種になっているものもあるんです。

外来種の少なさも千框の特徴の一つです。外来種が多くなると生態系が崩れたり、在来種の絶滅につながったり大きな影響を及ぼします。千框で調査したところ、50 cm四方に植物はおおよそ20種類。そのうち外来種は1種類だけでした。逆に、在来種の植物は棚田全体で100種類以上も生息しています。

温かく迎えてくれる地元の人たち

最近では、研究のため週に2、3日



Profile

たんの ゆうき

岐阜大学大学院連合農学研究科博士課程1年。

東京都出身。

普段は静岡大学大学院農学研究科共生バイオサイエンス専攻生態学研究室に所属。

棚田のあぜの草刈り強度の違いや植物の多様性などについて研究し、学会でも発表している。

ほど静岡市から通っている私を、山本さんや堀さんをはじめ、地元の人たちはいつも温かく迎えてくれます。

皆さんからは棚田が好きで、すごく大事にしていることが伝わってきます。棚田を何とかしようとか、観光地化しようとか必要以上に棚田を守りたいというよりは、ごく自然にこの風景、この場所に接していると思います。そこからは、ここにある自然のままとこれからも守っていききたいんだという気持ちを感じます。

いつまでも残っていてほしい

田植えのとき、稲穂が実ったとき、稲刈りの後などの千框は本当にきれいです。この景色を見たとき、「この場所の研究をしていてよかったなあ」と毎回実感します。

研究はあと2年間続ける予定です。私が続けている研究が、棚田の生態系を守ることに少しでもつながればうれしいです。将来、もし静岡を離れることになっても、今のままがずっと残っていてほしいと思います。

四季

Four seasons

四季折々の表情をみせる棚田
1年を通じて美しく変わる景色は
私たちの心を癒してくれます

春

木々が芽吹き、草花が咲き始め、桜の花が咲く頃、棚田の大切なあぜを守るあぜ塗りが始まります。

5月になると、あぜは花であふれ、蜜を求めて虫たちも集まってきます。代掻きが終わり、田植えを迎える千穂。市内外からたくさんのおーナーが集まります。一斉に田植えに取り掛かると、子どもたちの声、家族の笑い声が響き渡ります。

夏

田植え後、水を張った田んぼには朝日や夕陽が映り込み、美しい景色が見られます。夜になるとホタルも見られるかもしれません。

夏



春



棚田をもっとみんなに知ってもらえたら

KPC／菊川フォトクラブ(あぜ道アート主催)

栗田幸市さん(三軒家)



初めて「あぜ道アート」を開催したとき、地元の皆さんや写真家から好評をいただきました。それから、部員みんなでアイデアを出し合いながら、今年3回目のあぜ道アートを開催することができました。

ろうそくの灯りがゆれる棚田もきれいですが、私が特にきれいだと思うのは夕陽が田んぼに映り込むとき。時期を問わず真っ赤に空がやけてきれいですね。

上倉沢の棚田や内田の田んぼアートは、全国版の写真雑誌にものるくらい。もっと多くの人に知ってもらいたいです。あぜ道アートは地元の人たちと協力しながら、これからも続けていけたらいいですね。

生き物がたくさんいるところが好き

河城小5年

小田凛太郎くん(和田)



僕は、おじいちゃんが田んぼをやっているので有機栽培に興味を持ちました。堀さんから「この棚田は肥料は使っていないんだよ。お水だけ」と聞いてびっくりしました。棚田には牧之原からの湧き水が肥料の成分を運んでいることを知りました。

山本さんや堀さんたちは優しく、物知りで、いろいろな話をしてくれます。

僕は、棚田の生き物がたくさんいるところが好きです。これからもこの自然を大切に、生き物や植物が住める場所をなくさないように守っていきたいです。

6月中旬には、初夏のイベント「あぜ道アート」が開催されます。棚田に映る幻想的な灯りが写真家をはじめ、市内外から多くの人を魅了します。やがて梅雨を迎え、稲も大きく成長します。

真夏、稲が青々と茂り、太陽をいっぱい浴びた棚田は昆虫や水辺の生き物たちの楽園。この時期には大事な仕事、あぜ、田んぼの草刈りがあります。オーナーの皆さんも集まり一緒に汗を流します。

秋 稲穂がたわわに実り、千框は黄金色に輝きます。あぜ道にこだまする虫の声が秋の訪れを感じさせてくれます。

そして迎える稲刈り。棚田には再び多くの人が訪れ、ざくっざくっと稲を刈り取る音があちこちから聞こえます。収穫後、はざ掛けの終わった田んぼの風景もまた風情があります。

冬 伝統的に冬に水をためる千框は、生き物にとって大切な場所。絶滅危惧種のニホンアカガエルは冬の間に卵を産むのです。千框は豊かな水によってしっかりと生き物たちの命をも育んでいます。

1月には、あぜの崩れた場所の補修や荒れてしまった田んぼを掘り起こす復田をします。梅の花が咲く頃、田起こしが始まります。そしてまた、春が巡ってきます。



景色にも地元の人たちにも癒されます

個人オーナー

岡 克彦さん・美由紀さん(東京都)

去年の3月まで静岡市に住んでいました。棚田のオーナーに決まってから東京に転勤することになりました。

2人とも田んぼに入ったことがなくて田植えや稲刈りも初めてでしたが、楽しいですね。ここの自然と同じで皆さん優しくて。景色にも癒されて、事務局の人たちとお話しても癒されます。

四季折々に景色も変わり、東京から来ると自然の素晴らしさに感動します。満員電車で揺られている毎日なので、棚田に来るとほっとします。いつかここに住めたらいいなと思っています。



ここのものを使ったお弁当を食べてほしい

活動を支える女性部の代表

堀三千代さん(上倉沢)

オーナーさんたちに喜んでもらいたいと思い、お弁当を作ることになりました。本当は買った方が早いけれど、やはりここの食材、ここのお米を使ったものを作りたかったんです。最初は一般の人や子どもたち向けに餅つきをやったり、おにぎりを作ったり。そのときは200個、300個もお弁当を作ることになるとは思ってもみませんでしたが、やってしまうんですよね、ここの人たちは。

会員18人で「いつかここに農家カフェを作れたらいいね」と話しながら楽しく活動しています。



心の込められた手作りお弁当▲

棚田はみんなの宝物 さまざまな人の価値観に対応できる地域資源です



●農林水産省関東農政局
西関東土地改良調査管理事務所

中里 良一 所長

Profile なかざと りょういち

農林水産省職員。平成21年4月、加茂に事務所を置く西関東土地改良調査管理事務所長に就任。現在、NPO法人せんがまち棚田倶楽部理事兼事務局長代行のほか、学生サークル静岡大学棚田研究会や琉球大学おきなわ食・農研究会のアドバイザーなどを務める。

私が千框を知ったのは平成21年、太田市長さんを訪れたときでした。以前、鳥取

県で棚田保全活動に関わっていたという話をすると、「菊川にも素晴らしい棚田があるからぜひ見てほしい」と言われまして。後日、地元の皆さんを紹介していただいたのが始まりでした。

活動を続ける中で、昭和40年代の千框に戻したいという気持ちが生まれ、「もつと復田しようよ」と提案しました。すると、「広げたい気持ちにはみんな持つていない。でも広げたら営農しなくては

いけない。今、手一杯なのに誰が管理するんですか」と怒られてしまいました。「こんなことも分かっていなかったのか」と反省しました。

しかし、どうしてもあきらめきれなかった私は、静岡大

学農学部にお願ひし、棚田サークル設立の許可をいただきました。大学の掲示板に「棚田研究会に入りませんか」というチラシを張っておいたところ、3人の学生が加入。そこから、口コミで広がり、今では現役19人、OB10人の総勢29人までに成長しました。大学生は体力があるし、人脈もある。「人が足りない」と言うので友達を連れてきてくれる。棚田研究会の設立により、安定的な農作業支援を得られるようになりました。

棚田研究会の活動は農作業だけではありません。千

框でのイベント時や大学の学園祭などで棚田市場を開催。千框で取れた米や、千框にある青空農園で自分たちが育てた作物を販売しています。ただ育てるのではなく、売り物を育てるためには工夫が必要。また、「こんなに大変だったのに、実際売れるのはこんなに安いのか」という、農業の大変さを理解できるのです。そのため棚田市場では、加工品を販売するようにしています。菓子にするなど加工することで付加価値を高める。材料費から販売価格を決め、利益を計算するし営業力もつく。販売するといふ行為は、とてもよい経験になっていると思います。

私が棚田に求めるものは、「農村文化の継承」です。しかし、棚田に対する思いは人それぞれ。美しい景観や多様な動植物、農業体験を味わいたい人などさまざまです。棚田は、これらさまざまな人の価値観に対応できる地域資源。地元の人たちだけでなく、もともと多くの人にとつて、「宝物」になり得る可能性を秘めているのではないのでしょうか。

1 田植えや稲刈りで、棚田オーナーの案内役を務める研究会のメンバー。彼らの存在がオーナーと地元の皆さんをつないでいる。

2 静岡大祭に棚田市場を出店した研究会。今年は青空農園産、完全無農薬のサツマ芋を使用した、焼き芋とたい焼きを販売した。



11月

伊

豆半島西海岸に位置する松崎町石部の棚田は、眼下に駿河湾を一望できる絶景の棚田。標高120から250mの斜面に、およそ370枚の石積みの田んぼが広がっています。

石部地区は昭和30年代まで、孤立した地域で、農業と漁業で生計を立てる集落でした。しかし、40年代後半道路が開通すると、「伊豆最後の秘境」と脚光を浴び、多くの人が観光業で生計を立てるようになりました。加えて、高齢化や生産効率の悪さ、減反政策などにより、最盛期18ヘクタールほどあ

った棚田は荒廃の一途をたどり、気づいたときには1枚の田んぼすら見る事ができなくなっていました。

平

成11年、「地域・産業の活性化のため棚田を復田し、都会の人との交流の場にしよう」と棚田保全推進委員会を設立。農作業体験を通して、全ての人が笑顔になれる「百笑の里」づくりをめざし、荒れ果てた棚田の復田を始めました。14年には、交流棟や水車小屋、農道なども整備され、棚田オーナー制度もスタートさせました。

当初60組だったオーナー数



●松崎町石部地区
棚田保全推進委員会

高橋 周蔵 会長

Profile たかはし しゅうぞう

石部オリーブ園園主。平成9年に石部地区の区長となり、棚田の復田を提案。平成11年の棚田保全推進委員会発足当時から会長を務め、復田作業や、棚田オーナー制度を実行する。

URL <http://ishibu-tanada.com/>

棚田は都市部の人たちとの交流の場
地域を活性化させるさまざまな可能性を秘めています

は年々増え、昨年は100組を越えました。田植えや稲刈り時には、主に首都圏から600人以上が石部を訪れます。

また、草刈りや成長を確認に定期的に棚田を訪れるオーナーさんもいます。その多くは、石部の民宿に宿泊し、飲食店で食事をし、地場産品を購入していただくれます。さらに、近年富士常葉大学の学生50人以上が、民宿に宿泊しながら農作業に参加するなど、交流人口が拡大しています。

棚

田の古代米を使用した焼酎（百笑一喜）やまんじゅうなどの加工食品の開発も

町商工会と連携して進めています。古代米を使ったうどんやパンなどはインターネットやイベントを活用しながら町内外で販売。売り上げも伸びています。

棚田の復元をきっかけに、二次産業、三次産業を含めた地域産業全体に少なからず影響を与えていると思います。多くの人が棚田の恩恵を分かち合い、地域が活性化することで、地域全体で棚田を保存していこうという気持ちが高まると思っています。

現

在、日常管理を行う地元保存委員会の平均年齢は70歳を超え、活動を継続していくためには課題が山積みです。今後棚田オーナーを受け入れていくためには、地元にも体力が必要。地元に住する若い世代の増加は欠かせません。そのためには、安定した収入と、石部地区に暮らしたいという魅力がなければなりません。

私たちは、今後も少しでも住みやすい地域にするため、みんなで助け合って頑張っていきたいと思っています。「心豊かに」そんな地域であり続けたいと思います。

1_江戸時代から昭和30年ごろまで、およそ18ヘクタールの田んぼで連綿と稲作が続けられてきた石部の棚田。駿河湾や富士山を望む風光明媚な場所です。

2_石部の棚田で収穫された黒・赤米を原料に造った焼酎「百笑一喜」。売り上げの一部が棚田保全活動のため寄付されている。



棚田は地域の宝
これからも守り続けるために
その魅力を多くの人に伝えていきたい

●NPO法人「せんがまち棚田倶楽部」

山本 哲 理事長

Profile やまもと さとし

地元農家。平成6年、千枚田を考える会の立ち上げから、現在のNPO法人せんがまち棚田倶楽部に至るまで、常に代表の立場を務める。強力なリーダーシップで、保全活動を引っ張っている。





◀11月9日、棚田での米作りや動植物について調べるため、千框を訪れた河城小学校5年生の児童5人。千框で研究していた静岡大学大学院農学研究科の根岸春奈さんから話を聞く真剣な眼差しは、将来の千框を守る希望の光です。

農

作業の面だけを考えたとき、地元にとって棚田は「お荷物」でしかありません。現にこの千框も、「効率の悪い田んぼ」ということで、気づいたときにはほとんどが耕作されない荒地と化していました。

私たちの祖先が汗と涙で築いた棚田。私たちを育ててくれた棚田。メダカの棲む、ホタルの舞う棚田を守り続けることで、きれいな水と緑あふれる自然の大切さを子どもたちに伝えていきたいと、活動が続けてきました。

近

年は、活動を始めた当初には想像できないほど多くの人が、棚田を訪れるようになりました。もし棚田がなければ、この上倉沢にテレビ局が取材に來たり、大学生が研究したり、外国の人が視察に訪れたりすることはなかったのではないのでしょうか。そして、棚

田に集う多くの人たちが、私たちに棚田の本当の価値を気づかせてくれました。

私たちには見慣れた景色が、見る人の心を癒す懐かしい景観であること。今まで何とも思わなかった植物や生き物が、ここでしか見られない貴重な種類であること。

苦痛だった棚田での農作業が、貴重な体験であること。地元にとってお荷物だと思っていた棚田が、本当に貴重な財産であること、全国に誇る地域の宝であるということ、とに、改めて気づくことができました。

今

は、これから先も守り続けなくてはならないと、より強く感じるようになりました。また、棚田の歴史や動植物についても、今まで以上に興味を持ち、勉強するようにしました。20年前の荒れ果てたままであつたら、決して

知ることも、感じることもできなかったことだと思っています。

活

動を継続するということは確かに大変です。自分の家の農作業もあり、「この活動をやつてなかったらもっと楽だったな」と思ったこともありましたが、しかし、今まで続けることができたのは、一緒に活動する仲間がいたからです。

田植えや稲刈りのとき、準備や片付けなど裏方に徹してくれるメンバー。オーナーの皆さんを喜ばせようと、お弁当を作ってくれた女性部など、それぞれが自分の役割を理解し、自主的に動いてくれます。同じ思いを持った仲間がいることが、活動を継続することができた一番大きな要因です。

もし棚田がなければ、地域のみんなと一緒に何かやるということ、こんなになかったと思いますし、保全活動を通じて、地域のつ

ながりが強くなったと思います。

私

たちの活動の一番の目的。それは、「地域の宝である棚田を将来に引き継ぐこと」です。

私たちは、この上倉沢の地に生まれたことを宿命と思い、できる限り活動を続けていきたいと思っています。しかし、それには限界があります。もし、私たちの意思を引き継いでくれる人がいなければ、千框はまた元の荒地に戻っていくでしょう。そうさせないために、今、私たちにできることは、未来を担う子どもたちに棚田の魅力を伝えていくことです。

田植えや稲刈りなどの体験を通して棚田の土に触れ、棚田に生きる貴重な動植物と触れ合い、棚田でどんなことになって遊んだ子どもたちが、将来棚田を守り続けてくれることを願っています。

【取材を終えて】

現在、全国に誇るべき地域の宝となった千框。17年前、もし地域の人たちがその価値に気づかなければ、今なお草木が生い茂る荒地のままだったのかもしれない。

「先祖から受け継がれた棚田を守りたい。そして、子どもたちへ引き継ぎたい」と動き始めた地域住民。その地域を愛する気持ちと、生き生きと保全活動に取り組む姿が、棚田をより魅力的なものとし、多くの人たちを引き付けているのです。

「地域づくり」や「地域の活性化」という言葉をよく耳にしますが、実際には簡単にできるものではありません。しかし、自分たちの住む地域には愛し、誇りに思うものが誰にでもあるはずだ。

何気ない風景や祭り、伝統文化や芸能など地域に残るものはたくさんあります。そして、先人から引き継いだ地域に誇りを持ち、守り続けることは、この地域に暮らす私たちにしかできないことなのです。

「自分たちにできることを」と一歩踏み出すことが、地域づくりであること。地域を愛し誇りに思うことで、守り続ける価値が生まれることを、千框の美しい景観とそこに集う人たちの笑顔が教えてくれました。

特集 守り続ける地域の価値 完

【参考文献】▶静岡の棚田研究—その恵みと営み／静岡県農林技術研究所(静岡新聞社)
▶日本の棚田／中島峰広(古今書院) ▶掛川誌稿／斎田茂先(名著出版)

年末年始の市の業務

市の関係機関は基本的に12月29日(木) から平成24年1月3日(火) までお休みです。ただし、市役所本庁の時間外受付の窓口で、出生届や婚姻届、死亡届などは受け付けます。また、各施設の休みは下表のとおりです。

日曜開庁のお知らせ

日 時 12月25日 午前8時15分～12時15分

場 所 小笠支所小笠総合サービス課 (☎73-1112)

取扱業務 (①～④は、来庁者本人分のみ取り扱います)

①現在の住民票写しの発行 (住基ネットによる広域交付を除く)

②印鑑登録手続き、印鑑証明書の発行

③現在の戸籍謄本、抄本の発行

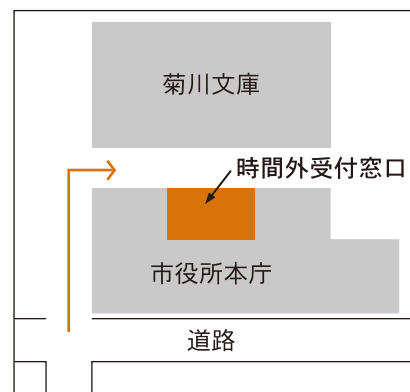
④外国人登録原票記載事項証明書の発行

⑤市税、国民健康保険税の収納

⑥体育館など施設使用料、保育料、水道料の収納

※⑥については、納付書を持参してください。

納付書がない場合は、受け付けできません。



施設名	問い合わせ	12月				1月			
		28	29	30	31	1	2	3	4
		水	木	金	土	日	月	火	水
市 役 所 本 庁	35-2111 (案内・時間外)		休	休	休	休	休	休	
小 笠 支 所	73-1111		休	休	休	休	休	休	
プ ラ ザ ケ ヤ キ	37-1111		休	休	休	休	休	休	
菊 川 児 童 館 (子育て支援センター)	37-1135		休	休	休	休	休	休	
小 笠 児 童 館 (子育て支援センター)	73-5698		休	休	休	休	休	休	
中 央 公 民 館※1	73-1130	休	休	休	休	休	休	休	休
文 化 会 館 ア エ ル	35-1515	休	休	休	休	休	休	休	休
菊 川 文 庫	36-2220		休	休	休	休	休	休	
小 笠 図 書 館	73-1132		休	休	休	休	休	休	
黒田家代官屋敷資料館	73-7270	休	休	休	休	休	休	休	休
歴 史 街 道 館	73-6285	休	休	休	休	休	休	休	休
市 立 総 合 病 院※2	35-2135 (案内)		休	休	休	休	休	休	
菊川市家庭医療センター	73-2267		休	休	休	休	休	休	
保養センター 小菊荘	73-2460			休	休	休	休	休	
環境資源ギャラリー	23-2273		休	休	休	休	休	休	
環 境 保 全 セ ン タ ー	35-2065		休	休	休	休	休	休	
赤 土 リ サ イ ク ル ス テ ー シ ョ ン	—	年末年始も持ち込み可能 (びん、缶、ペットボトル、プラスチック製容器包装)							
聖 苑 組 合	36-3160					休	休		
菊川生活環境センター	35-4495		休	休	休	休	休	休	
※し尿汲み取り申し込みは12月15日(木) まで。									
小 笠 衛 生	73-2352		休	休	休	休	休	休	休
※し尿汲み取り申し込みは12月9日(金) まで。									

※1) 12月27日(火)から平成24年1月5日(木)までの間は会議室などの使用はできません。

※2) 急患は随時受け付けます。

年末年始のごみの搬入はお早めに



問い合わせ 環境推進課環境推進係 (☎35-0916)

毎年、年末は大掃除などによりごみが多く発生し、環境資源ギャラリーが大変混雑します。今年の年末も混雑が予想されますので、家庭内の片付けやごみの搬入はお早めをお願いします。

ステーション収集に出せるものはごみステーションに、古紙やプラスチック製容器包装等の資源物については無料受取を利用し、ギャラリーへの搬入台数を減らすことにご協力ください。なお、ギャラリーへ搬入する場合も事前に解体・分別をきちんと済ませて、ごみ出しがスムーズに行えるようお願いします。

●環境資源ギャラリーのご案内

受取時間 平日：午前9時～正午、午後1時～4時
※12月25日(日)は午前9時～11時30分まで
年末年始休業日：12月29日(木)～平成24年1月3日(火)

問い合わせ 環境資源ギャラリー (☎23-2273)

●資源物の無料受取

受取場所 赤土リサイクルステーション

受取時間 午前8時～午後5時(年末年始も受け取ります)

受け取れる物 びん、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、白色トレイ、プラスチック製容器包装、新聞紙、雑誌、ダンボール、雑がみ

●古紙の回収拠点

回収場所 宮前ごみステーション横(線路北側)、噴水公園横三丁目ごみステーション横(市役所東側)、河城地区センター駐輪場横、六郷地区センター西側駐車場、青葉台コミュニティーセンター敷地内、内田地区センター郷土資料館前、牧之原気象観測レーダーグランド前、横地地区センター前、みなみやま会館調整池北側

受取時間 水、土、日曜日 午前8時～午後5時
※平成24年1月1日(日)、4日(水)は休みです。

出し方のお願い 風で飛び散らないように、紙袋に入れるか、紙ひもで縛って出してください。

Q 広報 Quiz

当てよう菊川の特産品

上倉沢の棚田は「千枚の田んぼ」という意味から地元では何と呼ばれているでしょうか？

no.33



今月の一品

**せんがまち
棚田米2kg**

提供：NPO法人せんがまち
棚田倶楽部
協力：菊川市観光協会

正解者の中から1人に「今月の一品」が当たります。ハガキに、答えとあなたの住所・氏名・年齢・電話番号のほか、身近なできごとや広報を読んで感じたことなどを書き添えて、企画政策課までお送りください。

■あて先

〒439-8650 菊川市堀之内61番地
菊川市役所企画政策課

■締め切り

平成23年12月28日(水) 当日消印有効

■結果

10月号の広報クイズには16人の応募があり、全員正解。答えは「348人」でした。

このコーナーでは0歳から3歳くらいまでの子どもの写真を募集しています。お子さんの笑顔を紙面に飾ってみませんか。兄弟・姉妹と一緒に撮影した写真も大歓迎です。

申し込み方法 窓口、電話、Eメール

申し込み先 市役所本庁2階企画政策課秘書情報係 (☎35-0924)

Eメール：kikaku@city.kikugawa.shizuoka.jp

すくすく
アイドル

☆大募集☆

あつまれ
元気な
きくがわっ子☆



響く心と絆のハーモニー

アエルで小中学校親睦音楽会



小笠東小児童は「U & I」「ひろい世界へ」を合唱

市内小中学校親睦音楽会は10月28日、文化会館アエルで開かれました。市内全小中学校から564人が参加。小学校は4年生が対象で、練習を重ねてきた合唱や合奏を披露しました。中でも、加茂小児童は郷土の偉人「三浦刑部」にまつわる音楽劇を、小笠南小児童はリコーダーやアコーディオンなどを使い、合奏するなど各学校工夫した発表が見られました。

中学校は合唱コンクールの最優秀学級の3年生3クラスが参加。高らかな歌声がホールいっぱいに響きました。

多彩なステージの連続に、保護者たちからは大きな拍手が送られました。

芸術・文化の秋を堪能

第7回菊川市文化祭開催



書道パフォーマンスも



華麗なステージ

菊川市文化祭は11月5日、6日に文化会館アエルと中央公民館で「人の波紋、文化の波紋」をテーマに開催されました。

芸能ステージ部門では、ダンス、バンド、古典芸能などに子どもからお年寄りまでおよそ600人が出演。世代を超えたパワフルなステージを繰り広げました。展示アート部門には、絵画や写真、生け花などおよそ1,000点の多彩な作品が展示されました。

また、似顔絵やラッピングなど15の体験コーナー、ふれあい広場での音楽にあわせた迫力ある書道パフォーマンスなどもあり、多くの人でにぎわいました。

いろんなスポーツを体験！

スポレクフェスティバル2011



親子で縄跳び



洗面器お手玉に挑戦！

「スポーツレクリエーションフェスティバル KIKUGAWA2011」は11月6日、市民総合体育館で開かれました。気軽にスポーツに親しんでもらおうと、体育指導員が企画し、スポーツ委員やスポーツボランティアの協力により開催。洗面器お手玉やペア縄跳び、竹を使った「バンブーダンス」など9種類のゲームが用意されました。お昼には、学校給食のカレーライスのサービスも人気を集めました。

雨天で屋内の開催となりましたが、会場には多くの親子連れが足を運び、軽スポーツでさわやかな汗を流しました。



10/24 高齢者のお宅へ防火診断

全国秋の火災予防週間の活動の一環。80歳以上で一人暮らしをしているお宅へ消防署員や女性消防団員が訪問し、防火指導や緊急時の連絡先の確認等を実施しました。



10/28 水野さんが旭日単光章を受章

水野初男さん（丹野・元小笠町議会議員）が、高齢者叙勲で旭日単光章を受章されました。おめでとうございます。



11/1 西部パートナーシップ研修会

文化会館アエルで開かれ、県西部地域の農林水産業に従事するときめき女性や農業関係者などおよそ100人が参加。講演や取り組み事例をヒントに、幸せな生き方、経営について考えるきっかけとなりました。



11/18 築地さん100歳おめでとう

築地廣雄さん（五丁目上）が100歳の誕生日を迎えました。

家族が見守る中、太田市長から花束と肖像画の目録が贈られました。



11/19 黒田さん100歳おめでとう

黒田ふささん（東組）が100歳の誕生日を迎えました。

家族や親戚などが見守る中、太田市長から花束と肖像画の目録が贈られました。



家族で楽しめるリース作り 子育てサポートりぼん講座

市ボランティア団体「子育てサポートりぼん」のクリスマスリース作り講座が11月8日、河城地区センターで開かれました。市1%地域づくり活動交付金を利用した「すまいるサロン」の一環で、市内主婦など8人が参加。元メンバー鈴木啓子さんが講師となり、光でにおいや雑菌をカットする「光触媒アーティフィシャルフラワー」を使ったリース作りに取り組みました。

りぼんでは、今後も幅広い年齢層の人たちが参加できるような講座を企画する予定です。



みんなで楽しくリース作り

日ごろの成果を舞台で披露 市老人クラブ連合会芸能祭

市老人クラブ連合会（山下昇会長）の芸能祭は11月17日、中央公民館で開かれました。今年はクラブから42組およそ60人が出演し、日ごろの成果を披露しました。旧小笠町時代から毎年開催される恒例行事で、今回で29回目を迎えます。

舞踊やカラオケ、銭太鼓、健康体操など次々にステージが続き、来場者255人を楽しませました。カラオケでは手拍子を送るなど、和やかな雰囲気で行われ、ステージを盛り上げていました。



リズムにあわせて健康体操

安心・安全、楽しい長寿食入門**平成23年度食の安全講演会**

多くの皆様のご来場をお待ちしています。

日時 12月17日（土）

午後1時30分～3時

（受付：午後1時～1時25分）

会場 中央公民館多目的ホール

内容 「食」や「長寿の秘訣」について

演題 「安心・安全、楽しい長寿食入門～老けない、若返る、笑う、長生きする～」

講師 永山久夫さんひさお（食文化史研究家）

※申し込み不要、直接会場へ

●●●消費生活センター（商工観光課内☎35-0937）、健康づくり課成人保健係（プラザけやき内☎37-1112）

その他**交通事故をなくしましょう****年末の交通安全県民運動**

期間 12月15日（木）～31日（土）

年末に向けて慌ただしくなり、飲酒の機会も増えます。一人ひとりが交通ルールとマナーを守り、交通事故をなくしましょう。

●●●安全課交通防犯係（☎35-0923）

安心して生活していただくために**高齢者の障害者控除対象者認定**

障害者手帳の交付を受けていない満65歳以上の人で、6カ月以上寝たきりの人や障がいをお持ちの人は、障害者控除対象者認定を受けることで、所得税や市・県民税の申告での障害者控除の対象になります。認定にあたっては、申請が必要となります。

詳細は下記までお問い合わせください。

●●●長寿介護課高齢者福祉係（プラザけやき内☎37-1254）

悪質な訪問販売・電話勧誘販売にご注意を!!

販売目的を告げない突然の訪問や電話で、言葉巧みに私たち消費者を動揺させ契約に持ち込む悪質な訪問販売や電話勧誘販売が後を断ちません。このような手口によって契約をしまいお悩みの人は、早めにご相談ください。

年末の慌ただしい時期は、心にゆとりがなくなり、消費者がトラブルに巻き込まれる危険も高まります。普段以上に注意してください。※訪問販売・電話勧誘販売契約に関する詳細は、下記へお問い合わせください。このほか消費生活センターでは、専門の相談員が消費者契約のトラブルに関する相談、商品やサービスに関する相談・苦情を受け付けています。

●●●相談・問 消費生活センター（商工観光課内☎35-0937）

所有者の判明しない猫の不妊・去勢事業費補助金

補助の対象 ①市内に生息し、所有者の判明しない猫

②これから保護し、不妊・去勢手術を受けさせるものであること

③申請者は事前に市へ登録した団体および動物愛護推進員、保護管理指導員であること

団体登録するための要件

①市内に在住または在勤者5人以上で組織されていること

②所有者の判明しない猫の繁殖抑制を行っていること、新たな飼い主探しその他の当該猫の問題解決に努めていること

③地域住民の理解が得られる活動であること

④営利を目的としていないこと

⑤市やその他から補助金などの交付を受けていないこと

補助金額 メス（不妊）：6,000円 オス（去勢）：4,000円

補助金交付手続きの流れ ①団体登録申請提出→②事業実施届提出→③手術の実施→④交付申請と請求

●●●●●環境推進課環境政策係（☎35-0916）

ご存知ですか 生ごみ処理機器購入費補助金

市では、一般家庭から出される生ごみの減量のために、生ごみ処理機器を購入する世帯に購入費の一部を補助します。

生ごみ処理機器の利用によってごみの量がおよそ7分の1になるといわれています。あなたも「ごみ減量」を始めませんか。

補助対象者 ①市内に住所を有し、現に居住している人

②市税等を滞納していない人（同一世帯に属する人を含む）

③市内の販売店で購入する人

④過去5年以内に購入補助を受けていない人

補助対象機器 ①電気式生ごみ処理機

②生ごみ堆肥化容器（コンポスト容器）

補助額 購入額の2分の1を補助

※電気式生ごみ処理機は2万円、生ごみ堆肥化容器（コンポスト容器）は5,000円が限度額（100円未満切捨て）

申し込み方法 補助を受ける人は、処理機器を購入する前に環境推進課窓口で申し込みください。

※申し込み前に処理機器を購入された場合は、補助を受けることができませんのでご注意ください。

●●●●●環境推進課環境推進係（☎35-0916）

募集

菊川の医療を守るために

家庭医療センター職員を募集

職種・募集人員

看護師（臨時職員） 1人

勤務地 家庭医療センター

受験資格 資格を有する人

受付期限 12月8日（木）

試験日 12月12日（月）午後4時

会場 菊川市家庭医療センター
カンファレンスルーム

選考方法 面接など

※詳細は、ホームページでもご覧いただけます。

申・問 市立総合病院総務課
（☎35-2130）

読み聞かせの楽しさを体験

読み聞かせボランティア講座

経験の有無に関わらず、読み聞かせやボランティア活動に興味をお持ちの人はぜひご参加ください。

日時 12月17日（土）

午前9時30分～11時30分

会場 菊川文庫 2階視聴覚室

講師 山崎幸子さん、山本清子さん

対象 高校生以上

定員 15人

問 小笠図書館（☎73-1132）

鳥獣害でお困りの人へ

狩猟免許（わな猟）試験

日時 平成24年2月19日（日）
午前9時～

会場 北遠総合庁舎4階大会議室
（浜松市天竜区二俣町鹿島559）

免許の種類 わな猟

内容 知識試験（法令・猟具・鳥獣・鳥獣の保護管理）

適性試験（視力・聴力・運動能力）

技能試験（猟具の取扱い・鳥獣の判別等）

申込期間 12月19日（月）～平成24年1月20日（金）

受験料 5,200円

申 中遠農林事務所森林整備課
（☎0538-37-2301）

問 農林課農業係（☎35-0938）

平成24年度一般競争（指名競争）

参加資格審査申請の受付

平成24年度（1年分）の一般競争（指名競争）参加資格審査申請を次のとおり受け付けます。提出方法などを記した申請書提出要項などは財政課で配布します。なお、今回の申請は平成24年度1年間分の追加申請であり、平成23・24年度（2年間分）の申請をすでにしている人は申請する必要はありません。

※申請書提出要項などは、市ホームページにも掲載しています。

対象 ①建設工事 ②測量・建設コンサルタントなど ③物品などの製造・販売、役務の提供

受付期間 平成24年1月16日（月）～2月15日（水）

申・問 財政課契約管財係
（北館内☎35-0919）

仲間作りをしてみませんか

平成24年度スカウト隊員募集

対象

ビーバースカウト：小学1・2年生

カブスカウト：小学3～5年生

ボーイスカウト：小学6年生～中学3年生

●説明会

日時 平成24年1月7日（土）
午後7時～

会場 町部地区センター

※1月8日（日）午前9時から正法寺（西方）スカウトハウスで開かれる集会の中でも説明します。

問 ボーイスカウト菊川第一団団委員長 織本（☎36-3456、090-479-5-3509）
団員 山下（☎35-2901、090-1824-2441）



相談

自死遺族の皆さんを支援

「わかちあいの会」「すみれ相談」

●わかちあいの会（遺族の集い）

日時 12月10日（土）、平成24年

2月25日（土）午後1時30分～4時

会場 サンウェルぬまづ3階可
動式会議室（沼津市日の出町1-15）

内容 自死遺族が集い、お互い
が思いを語り合う

●すみれ相談（相談員による個
別相談） ※要予約

日 時	会 場	申し込み先
12月21日（水）	東部健康福祉センター	☎055-920-2087
平成24年 1月18日（水）	富士健康福祉センター	☎0545-65-2155
平成24年 2月15日（水）	東部健康福祉センター	☎055-920-2087
平成24年 3月21日（水）	熱海健康福祉センター	☎0557-82-9120

●個別相談（無料）

実施日 毎週火・水・金曜（年
末年始を除く） ※要予約

対象 大切な人を自死で亡くされた人

申・問 県精神保健福祉協会
（☎090-2687-2758）

保健

あなたの行動で助かる命がある

献血にご協力をお願いします

日時および会場 12月28日（水）

午前9時30分～11時50分、午後
1時～4時：堀之内体育館東側

平成24年1月5日（木）

①午前9時30分～正午：小笠支所

②午後1時30分～4時：JA遠州
夢咲本店

問 健康づくり課成人保健係
（プラザげやき内☎37-1112）

催し

年末年始のお買い物どうぞ

菊川朝一を開催します

日時 12月28日（水）～30日（金）
午前6時～10時

会場 内田小学校北側

内容 新鮮な野菜、お正月飾り、
花の販売

問 菊川朝一 池田
（☎090-5850-9643）



菊川の偉人・先人 其の三十三



史学を志した「銅鐸の後藤」
後藤 肅堂

© 静岡新聞社

- 1 歴史、考古学の研究に専念した後藤肅堂
- 2 棚草の後藤家敷地内に残る顕彰碑



2

1

後藤肅堂は慶応2年（1866年）遠江国比木（現御前崎市比木）に生まれ、棚草の後藤家を継ぎました。冀北学舎（現掛川西高校）、早稲田大学経済学部で学んだ後、相良銀行分行長になりましたが、退職して史学の道を志します。

東京の小石川や牛込に住み、歴史・考古学を研究。近代日本の文化財行政に深く関わった柴田常恵氏に協力し、静岡県を中心に古墳を探究しました。当時は古墳や遺跡の発掘は盛んではなく、その草分け的存在でした。古代の調査や論文の執筆および古墳・古器・古文書等を探り、考古学界では「銅鐸の後藤」と名を知られました。

肅堂の仕事は極めて多く、中でも雑誌「日本及日本人」に連載した「和寇史論」の長文は数十巻にも及ぶ力作で、その名を天下に馳せました。明治44年（1911年）、南北朝正閏論が起ると、肅堂は南朝正統論を唱え、三種の神器の所有する南朝が正統であると主張しました。

●後藤 肅堂 ごとう しゆくどう

慶応2年（1866年）－
昭和7年（1932年）
遠江国比木生まれ。

本名は後藤秀穂。
歴史家、考古学者。古墳や遺跡の発掘は盛んではなかった当時、その草分け的存在であった。

※1 弥生時代に製造された釣鐘型の青銅器
※2 日本の南北朝時代において、どちらを正統とするかの論争
※3 石碑の題字

（参考：ふる里たなくさ、静岡県歴史人物事典）

その後「歌人石川依平」「皇陵史稿」などの著作を執筆したほか、「山田長政とその時代」が静岡新聞に掲載されました。

昭和6年（1931年）、海軍省に交渉して和寇に関する研究成果を出版しようとしたが、それを果たすことなく、翌年2月に亡くなりました。棚草の県道沿いに冀北学舎の同窓であった岡田良平の※3篆額と一木喜徳郎宮内大臣の哀悼の詩が刻まれた顕彰碑が建てられました。その碑は平成14年（2002年）、後藤家の敷地内に移され、今に残っています。



年長児さん全員集合③
● 内田保育園 ふじ組

表紙のことは



昭和40年ごろの千框を撮影した表紙の写真。山本哲理事長が大切に保管しているものです。

昔の千框のことを聞くため取材した堀一枝さんに、この写真を見せると、驚いたことに左側の田傘をかぶった女性は、一枝さん本人でした。

現在の千框を眺めながら、一枝さんは懐かしそうに当時のことを話してくれました。

